

企画意図

昨今、有名大学での大麻汚染や芸能人の薬物乱用が相次いでいます。薬物問題は、もはや特別なことではなく、より身近な問題へとシフトし、事態は深刻化しています。小学校・中学校・高校では薬物乱用防止教育が行われ、「薬物は絶対ダメ」ということは、誰もがわかっているはず。では、なぜ手を出してしまうのでしょうか。それは、薬物問題をどこか他人事と捉えていて、身についた知識として定着していないからではないのでしょうか。だから薬物を勧められたとき、きっぱりと断ることができずに手を出してしまうのです。

この作品は、薬物体験者自身の、強い説得力を持つ言葉で、「薬物の真実」、つまり「薬物乱用の本当の怖さ」を伝えていきます。「周りに迷惑さえかけなければ、個人の自由」、「薬物は意志が強ければやめられる」…そんな不確かな情報や好奇心で薬物に手を出すことが果たしてどんな結果を招くのか、その真実を明らかにします。

「一度だけなら大丈夫」の「一度」を抑止する作品になることを念頭において制作しました。

内容

◎薬物体験者のインタビュー（体験者に学ぶ）

体験者の言葉が持つ説得力。

子どもたちへの(もしかしたら、誰もが犯しうる可能性を秘めている私たち自身への)反面教師として、体験者に学ぶ。

- 薬物を使用し続けることで、どんなことが起こるのか。
- 周囲をどのように巻き込み、不幸にさせるのか。
- やめたくてもやめられない怖さ。やめることがいかに困難なことか。

◎身を守るための“知識情報”

- 依存性薬物＝ 覚せい剤・大麻・MDMA・違法ドラッグ
- 人体への影響→脳が支配される ● 幻覚や妄想、フラッシュバック、耐性

◎生徒たちへ問いかけ

他人事ではなく、自分の問題として考えてもらうための工夫をしている。ナビゲータ役の男女が、メールを通して互いに問いかけ、考え、答えを探る。薬物について一方的に教えるだけでなく、生徒たち自らが考えるきっかけやヒントを提供している。

- 悪いことだと分かっている、なんで薬物なんてやるのかなあ
 - 薬物を使い続けると、いったいどうなっちゃうんだ…
 - 「ダメ絶対」というけれど…なぜいけないんだろう？
- 上記の『問いかけ』に対して体験者が答えていく

監 修：埼玉県立越谷総合技術高等学校
生徒指導主任 教諭 長岡邦子

協 力：日本ダルク本部／日本薬物対策協会

資料提供：厚生労働省 関東信越厚生局 麻薬取締部
神奈川県 衛生研究所

プロデューサー…真野 友也 監督・脚本…山口 隆己
大谷 啓一 撮 影…越智 光彦

制作協力…株式会社パンフォーカス

企画・制作…東映株式会社 教育映像部